

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492600604	事業の開始年月日	2014年4月1日	
		指定年月日	2014年4月1日	
法人名	株式会社日本アメニティライフ協会			
事業所名	花物語 あじさい			
所在地	(〒252-0314) 相模原市南区南台 1-3-12			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成27年9月10日	評価結果 市町村受理日	平成28年2月3日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.rakuraku.or.jp/kaigo/w10/wp">http://www.rakuraku.or.jp/kaigo/w10/wp</a>
----------	---

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

平成26年4月にオープンしたグループホームです。スタッフは、30代からベテランまでおり、互いに学び合う明るい雰囲気になっています。施設は、相模大野駅と小田急相模原駅の中間に位置し、住宅街にあります。地域交流が徐々に盛んになり、ご近所の方々も親しくお声掛けして下さる関係性が出来つつあります。施設周辺には、商店や公園があり、入居者様に活動的な毎日を提供出来る環境が整っています。平成27年度は、相模台地区防災ネットワーク協議会の会員として活動させて頂き、地域防災の協力しております。毎月11日を「いい介護の日」として、無料介護相談日を設けています。地域と共に、笑顔のある生活をご提供し続けてまいります。

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成27年10月16日	評価機関 評価決定日	平成28年1月20日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

## 【事業所の概要】

この事業所は、小田急線相模大野駅と小田急相模原駅の間に位置しバスにて約10分、徒歩で約15分の表通りから少し入った住宅地に位置する。建物は2階建てで1階にリビングと居室3室、2階に浴室や居室6室の1ユニットのグループホームである。表通りにはファミリーレストランや各種店舗が立ち並び買い物や外食などが気楽にできる。

## 【理念の実践と利用者へ寄り添った介護】

利用者を観察し、笑顔で話しかけ、手を添えてケアして自立性を保つという介護の手法に基づいた理念「輝きとほほえみ」は職員に周知され共感を得ている。職員は、利用者の心身状況や能力に合わせてアクティビティの多彩なプログラムを用意して、誰もが「パロ」の楽しみながら身体機能を向上させるようサポートしている。アザラシ型のケアロボット導入により、職員と利用者が話し合っ名前をつけたり抱きしめたり話しかけたりすることによって癒され、心安らかに生活できるようになった。  
職員の連携もよく定着率が高い。職員同士のコミュニケーションを保つため、「サンクスカード」の仕組みをつくり何気ないことでも仲間への感謝の言葉を伝えている。些細なことでも管理者や同僚に相談してできるだけ悩みを解消し、介護現場での燃えつき症候群を防ぐ取り組みを実践している。

## 【地域との連携】

地域にアピールするため事業所前の道路脇に掲示板を作り、地域に向けて事業所や職員募集のお知らせをして職員の入職につながった事例がある。自治会に加入し役員を引き受けたり地域の活動に参加し、避難訓練時に近隣住民の協力を得ている。地域の防災ネットワークづくりに参加している。11月の防災訓練では、近隣住民の要請で今年4月に設置したAEDの使い方の研修を予定している。運営推進会議には自治会副会長2名、老人会役員、民生委員など地域住民の参加が多い。  
毎月11日を「良い介護の日」に定めて介護無料相談を行い、後見人制度や施設入所についての相談を受けている。地域のボランティアセンターに登録してボランティアを受け入れている。地域の保育園との相互交流も行われている。

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	花物語 あじさい
ユニット名	花物語 あじさい

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「輝きとほほえみ」を共有し職員の目につくところに掲げています。運営推進会議等で地域の方にもお伝えしています。	開設時に設定した理念「輝きとほほえみ」を玄関に掲示し、職員採用時に研修して周知・共有している。職員は、利用者に寄り添って笑顔で話しかけ、心身を活性化し自立性を維持するためのケアを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の役員も承り、回覧板をまわしています。自治会の清掃等に参加しています。地域の方々に、当ホームの避難訓練に参加して頂き誘導のお手伝いをしていただいています。	自治会の班長をしたり、自治会と老人会が管理している花壇の清掃などに利用者と一緒に参加したりしている。紙芝居のボランティアの来訪時に地域の保育園児を招待し楽しんでもらい、保育園の誕生会に招待を受けるなど交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月、11日に「いい介護の日」として介護無料相談日を設け地域にできることで協力をさせて頂き、認知症サポーター養成講座開催のお手伝いもさせて頂いております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で評価への取り組み状況等について報告し、新たな意見や要望についてはサービスに活かしています。	運営推進会議は年6回開催し、参加者は入居者、家族、高齢支援センター職員、民生委員、自治会副会長2名、老人会役員、職員などで、訪問歯科医や歯科衛生士が出席することもある。運営状況や活動内容を説明し出席者と意見交換を行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者からのお尋ね等、迅速に対応しています。常日頃から、研修等にも参加し良好な関係を築いています。	相模原市高齢福祉課には外部評価の報告を行っている。生活保護に関して相模原市南区、中央区の生活支援課と連絡を取り合っている。消防署主催の高齢者施設の防災研修を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践をしており、身体拘束は行っていません。ホームの施錠は基本的には夜間帯のみとしています。	身体拘束排除の方針は運営規定や契約書に明記して入所時に説明し、職員には研修で周知している。2階の居室エリアにカメラを設置し、モニターで見守りをを行っている。玄関やフロア入口は、日中は原則として開錠している。外に出たがる人には職員が見守りや散歩に同行している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	適宜、外部研修に参加し、全職員、研修報告書に目を通し情報を共有しています。皮下出血の観察・入居者様の細かい言動・表情変化に注意を払って虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市役所と連携し、成年後見制度が必要と思われるご入居者様には、制度が利用できるように南高齢者相談課等の相談窓口を紹介しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	金銭面・精神面・身体面・社会面について十分に説明をし、ご家族やご入居者様に疑問や不安等や和らげ、話しやすいように心がけています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様・ご家族様・地域住民の代表の自治会役員、民生委員や地域包括支援センター職員より要望やご意見を頂き運営に反映させています。	運営推進会議や行事などに家族が来訪した際に、日頃の様子を説明し意見や希望を聞いている。意思の疎通が難しくなった利用者について、家族と相談して薬剤の変更を行い回復に至った事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議・カンファレンスを定期的に行い意見交換を行っています。大きな行事では、本社の応援もあり協力体制が整っています。応援があるので経済的負担が軽減できています。	職員はフロア会議やカンファレンスなどで意見や提案を述べている。サービスの現場などで出た意見は、まとめ役の職員が管理者に伝えている。介護の手順の変更や、利用者の状況に合った外出先やレクリエーション項目の選択などを提案し、サービスに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上司と管理者は意見交換できる環境にあります。管理者は、随時、上司を通して代表者に現状報告・相談を行い、より良い職場環境作りに努めています。職員がひとりで負担を抱えないように相談しやすい雰囲気作りをしています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現場の状況は管理者から報告把握しています。研修案内は、誰でも見られる場所に掲示し積極的に参加の声掛けをしています。研修に参加した際には、研修報告書を皆で共有しています。新人には、その方の力量に合わせトレーニング調整をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会を通して地域のグループホームと連携し情報交換をしています。本年度は、実証実験の発表も行い、全国に報告し社会貢献を心がけ、日ごろのケアにつなげています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活歴を本人にお聞きし悩みや抱えている問題について理解し何でも話して頂けるように配慮しています。ホームに出来る事もお話させて頂き無理のない関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用する・しないに関らず、今まで介護をされてこられたご家族の意見や悩み、抱えている問題について理解し、心を開いて話して頂けるようにホームで出来る・困難な事も合わせてお話をし、無理のない関係作りに努めます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要となる支援を見極めながらお話を伺いホームの特徴や機能を説明しています。入居者様にとって一番適切で快適な毎日を過ごして頂けるよう心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る範囲で、作業や活動を一緒に行えるように声掛けしています。入居者様の得意・不得意分野を把握し、その方に合わせたものを行えるようにしています。職員も一緒に行うことで喜怒哀楽を共有できるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人が日常生活の中で見せる、ご家族への思いを面会等で積極的にお伝えし、ホームでの生活を共有できるようにしています。相談を重ね、ご入居者様にとって一番いい方法を検討いたします。ご家族様に食事介助の手伝い、行事参加を通して一緒に介護している連帯感を持てるよう努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	相談から利用開始まで、ご入居者様、ご家族様との信頼関係が崩れないよう慎重に進めています。面会の制限はしておらず、面会の際、くつろげる環境を提供しております。電話・お手紙・外出支援等、ご家族様の協力とともに行っています。	近隣のよく通っているクリーニング店や薬局と馴染みの関係になり、店員が雑談に応じたり話を合わせてくれたりしている。手紙や年賀状などは、取り次いで返事を出すときは支援している。絵手紙の先生をしていた利用者の仲間や教え子が来訪したり、利用者宅の隣人が庭の花を持参したりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様の性格や行動に配慮し、食事席・配置を考慮しています。行事の際も、お互いの相性を考慮しています。ご入居者様同士のやりとりを見守り、聞こえにくい方には職員が間に入り、会話が途切れないよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了したご入居者様やご家族様から近況報告を頂いたりしています。契約終了後も相談があればお受けし、後々までも交流を大切にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご入居者様に傾聴を心がけ対応しています。日々の会話や行動からご本人の思い・希望をくみ取るように努めています。意思がはっきりとしない場合には、ご家族様を含め担当医・職員と共にカンファレンスを行い、ご本人にとって一番よいと思われる方法を検討しています。	職員は、利用者を観察し話しかけたり寄り添ったりしながら意向や思いを聞き取っている。口数の少ない方は、雑談や昔話の中から汲み取り、趣味の針仕事を一緒にしながら意向を聞くこともある。利用者の希望でミカン狩りや小田原城・東京タワーなどの見物に出かけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に実際にご本人様とご家族様から情報収集し、情報を職員全員に周知して共通のケアが行えるようにしています。なじみの家具や思い出の品をお持ち頂き今までの生活が再現できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のバイタルチェックや表情・行動等を基に、ご入居者様の様子を観察し一日の過ごし方を把握するようにしています。ご入居者様一人一人の言動や機嫌、介護記録・体温表等を総合的に把握するようにしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランのカンファレンスは3ヶ月毎、定期的に行っています。申し送りの際、日々カンファレンスを行っています。面会時やケアプラン見直し時、ご本人やご家族様に要望を伺い、ケアプランに反映させています。	介護計画は、利用者ごとに自立支援の目標とサービス内容を設定している。職員は計画を認識して実施記録をつけ、カンファレンスで意見を交わしてモニタリングにつなげている。見直しは3～6か月ごと、状況の変化があれば随時行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づき・変化等を介護記録に残し、日常の記録を細やかに記録しています。日々のカンファレンスも同じ記録用紙に残すことで情報を共有し、介護計画の見直しに繋げています。他にも留意点や介護ケア内容の変更等の際、申し送りノートの活用で周知徹底を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族とメールやお手紙での情報交換を行っています。ご入居者様のニーズに合わせ、主治医と連携を取り、訪問マッサージを導入し生活リハビリに繋げて頂いています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアセンターと連携し地元のボランティアを積極的に受け入れイベントを開催しています。近隣の保育園等とイベントを通して交流し、相模原市社会福祉協議会とも連携をとっています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の希望に応じてかかりつけ医を決定しています。信頼の厚い、24時間サービスを受け、ご本人やご家族、職員も安心・安全に過ごせるようにしています。他病院受診が必要な場合には、かかりつけ医より繋げて頂き、ご入居者様に負担のないようにしています。	協力医の定期診療は月1回で、ほかに1日に数名ずつ往診している。個人的な通院は家族対応で、難しい場合は職員が付き添っている。診療情報は聞き取って記録している。訪問歯科は月2回来訪し、治療が必要な人の治療や口腔ケアを行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段から健康相談を行っています。ご入居者様の体調変化があれば報告し、看護師からも必要に応じて医療に繋げて頂き適切な医療連携を実現しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も、担当看護師・相談員と連絡を密にし、早期退院ができるように目指しています。ご家族様とも連携し、状況把握に努め退院後の生活が円滑に進むようにしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り指針を掲げています。主治医・ご家族様・施設との話し合いの時間を十分に用意しています。看取りの方向性を確認しながら良い対応・ケアを心がけています。	「重度化した場合における対応に係る指針」の内容を契約時に説明して同意を得ている。利用者が重度化した場合、看取り介護について本人・家族の希望に沿って医師や管理者を交えて話し合い、家族等の同意と協力を得て可能な限り支援をする方針である。	利用者の重度化に備え、医療関係者による看取り介護の基本的注意事項や心構えについて研修を行うことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	わかりやすくマニュアルを備え、いつでも職員の手が届くように配置しています。急変時や事故発生時の連絡体制をしっかりと整えています。AED取扱訓練を活かし、緊急時に備えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定訓練等、避難訓練を定期的に行っています。地域の方との共同避難訓練を行うほか、自治会の防災訓練にも参加しています。今年度から始まる防災会議にも参加しています。	防災訓練は年2回、消防署の立会いで火災想定や夜間想定で職員と利用者が参加して実施している。自治会の防災担当や隣人などの協力を得ている。災害備蓄は3日分の飲料水・食料とカセットコンロなどを保有し、備品リストで管理している。高齢者施設も加わり地域の防災ネットワークができています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心に配慮しながら、その人らしい生活を目指し、その時々状況に応じ、声掛けや対応を工夫しています。個人情報取り扱いについての教育を全職員に行い、誓約書を書いてもらっています。	職員は利用者の心身状況の差に配慮して、できないことを他人から指摘されたり気後れすることがないように気遣っている。レクリエーションなどでは、全員が参加できるような種目を選択している。個人情報のある書類は、施錠して保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様の気持ちに寄り添い、気持ちをくみ取り、行動・表情を大切にしています。日常の中では、それぞれのご希望に対応しお茶や散歩等細やかな対応を心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなくご入居者様のペースを第一に日々対応を心がけています。個々の生活スタイルに合わせ、時間の押し付けにならないように対応しています。個々の理解に合わせた説明を行い、本人の意思確認するようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の訪問理美容でカットやパーマを楽しんでいます。着替えの服を選ぶ時には季節に合った服を選んで頂き、お化粧品も楽しまれています。アクセサリもご家族の了解を頂き(紛失の可能性)おしゃれをして頂いています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食時準備や後片付けなど一緒におこなうようにしています。行事の際、デザート作り等を楽しんでいます。	献立と食材は専門会社が配達している。利用者は、もやしのひげ取り、配膳、テーブル拭き、食器洗い、おやつ材料づくりなどを手伝っている。職員は同席して介助や食事をしている。行事食は祝い膳などを提供し誕生日には利用者の希望で外食している。管理者が検食している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは管理栄養士による献立で提供しています。摂取量は常に表によりチェックしています。体重なども参考にし栄養状態を観察し、不足があれば補助食品も活用しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の出来るところは、行って頂き、声掛けや誘導を行います。磨き残しがないよう必要な方に仕上げ口腔ケアの介助を行っています。歯科医より口腔内は良好と評価を頂いています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握する為、排泄表に記録し、状況により声掛け、誘導を行います。リハビリパンツやパッドの交換もご本人のお気持ちに配慮して行っています。適切な声かけで、おむつの軽減につながっています。	排泄は自立している方が大半だが、必要な方には排泄パターンを把握しさりげなく誘導する場合もある。夜間は睡眠を優先しているが、多尿の方は個別対応で定期的に誘導している。失敗したときは、伝えてくれる方が多く迅速に対応している。トイレにもエアコンを設置してヒートショックを防いでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに取るようにして頂いています。ヨーグルトや食物せんいの多いものを食事で提供し、自然排泄できるようにしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々のペースや希望になるべく応じて入浴しています。浴室壁に絵を掲げ、ゆったりと入浴できる環境作りに努め、季節感や香りを楽しめるようにしています。入浴が苦手な方には、その人に合った声掛けで解消しています。	入浴は週2~3回で、希望により時間や回数を変えている。体調によりシャワー浴や清拭などに変えている。入浴を好まない方には無理強いしないで時間をかけて誘導している。同性介助を実施している。お湯はかけ流しにしている。菖蒲湯や柚子湯などで季節感や香りを楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心地よい環境作りの為、室温・照明調整はこまめに行い、日中も適宜休憩がとれるように配慮しています。不安で眠れない時は、出来るだけ寄り添い、傾聴し不安を取り除くよう努力しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局と連携し、薬作用・変更内容は、書面と口頭説明を受けわかりやすくファールしています。服薬時、職員二人でダブルチェックしています。薬変更の体調変化は、速やかに医師・施設長に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の意欲や日常生活動作、現役時代のお仕事を活かし調理のお手伝いやお皿拭き等、自発的にして頂いております。季節行事を大切にし、皆さんとおやつ作りを楽しんでいます。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩、中庭に出て外気浴等をしています。食材の購入なども一緒に行くこともあります。初詣、工場見学、地域のイベント等、季節の行事での地域交流もしています。	天候が許す限りできるだけ散歩に行っている。体調などにより中庭で外気浴をすることもある。散歩のほかに、日用品や食料品の購入に行っている。シュウマイ工場見学や牡丹園見物など遠方への外出や、藤沢のグループホームへ見学と利用者との交流を兼ねて出かけた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の能力にあわせて支援し、ご家族の了解のもと、買い物ができる環境を用意しています。入居者間の金銭トラブルはなく未然に防止しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の時間規制はしていないので希望時にご家族様からの電話を取り次ぎ出来るようにしています。必要があれば、お手紙の読み書きのお手伝いをしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快にならない様に適切な明るさと音に配慮しています。気候が良い時には、窓をあけ、風を取り入れる様になっています。清潔を心がけ、汚れたらすぐに掃除できるよう道具を用意しています。	リビングは、採光がよく明るい。掃除は職員と利用者が一緒に行っている。テーブルは、使用目的や個別の体位に応じて高さが調節でき、椅子はクッションなどで高さ調節をしている。ホーム内の全家具に転倒防止用具を設置して地震に備えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き、応接コーナーを作り、ゆっくりとくつろげる空間をつくっています。ご入居様同志の関係に配慮し、空間作りを話し合い提供しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時新しい物ではなく、使いなれた物を持ってきて頂くようお願いしています。ご本人と一緒に家具等、日常生活動作に合わせた配置を考えながら行っています。	居室は、1階と2階に分かれている。空調設備・照明器具・収納設備・防災カーテン・ギャッジベッドが常備され、利用者は衣類や馴染みの家具、家族の写真などを持ち込んでいる。清掃は職員や利用者自身が行っている。居室表札には、利用者が作った花飾りが飾ってある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に、ご本人の希望に応じて表札をかけてわかりやすくしています。その方の状況に応じて、ご自分の席が分かるように表示したりしています。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 花物語あじさい

作成日 平成28年 / 月26日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	33	グループホームにおいて看取り介護が今迄、無かったもので今後のケアの準備をして行きたい。	主治医・家族様施設と情報共有し、協力を得ながら心のやすらぎにシフトできる体制を整える	医療関係者による看取り介護の基本的注意事項や心構えについて研修を行う。	3ヶ月
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。  
 注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。